

# 隨泉寺寺報

平成20年(2008年) 11月号 第459号

082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

後期門信徒講座

講師 川尻町真光寺住職 寺西龍象師

講題 『人身受け難し今既に受く』

『南無阿弥陀仏が 目に見えぬ

大きなご恩で 目に見えぬ』 浅原 才市

浅原才市(あさはら さいち, 1850年〔嘉永3年〕2月20日生 - 1932年〔昭和7年〕1月17日没)は、日本の浄土真宗の代表的な妙好人の一人である。

「そうか、大きいから見えないのか」と、また才市さんから温かな感動を頂きました。大きすぎて目に入っているのに見えないもの、例えば地球、例えば宇宙。私が今、地球に抱かれて暮らしているように、宇宙の真ん中で泣いて笑っているように、なもあみだぶつの中真ん中に私は生まれてきたのですね。

ところでこの頃大学生に【アメリカとお月様とどちらが大きいか】と聞くと【アメリカ】と答える人が多いそうです。なぜかという【アメリカは眼に見えないけれどもお月様は眼に見えるから】と答えるそうです。それもまじめな顔で・・・。

## 11月の法座予定

- 11月 9日.....掃除 鴨の巣 8:30より
- 11月 8日~15日まで.....菊花展・絵画・手作り作品展
- 11月 14日昼席午後1時より.....後期門信徒講座
- 11月 14日夜席午後7時より.....出張法座 鴨の巣 宮野鼻治彦氏宅
- 11月 15日朝席午前10時より.....役員研修会 おとき
- 11月 15日昼席午後1時より.....後期門信徒講座
- 11月 19日昼席午後1時より.....伝道院特別法座
- 12月 2日午後4時より.....門信徒会本部役員会 忘年会

## ☆菊花展・絵画・手作り作品展 11月8(水)~15日(水)

秋の菊 にほふ限りは かざしてん

花よりさきと 知らぬ我が身を(貫之・古今集)

【通釈】「菊の花の香がする間は 折り取って頭髮に冠にさして愛でていよう、花より先に逝ってしまうわが身かも知れないのだから」人生の無常を感じたときに菊を見て詠んだのでしよう。菊花は時が経つとだんだんと紫色っぽく変わってゆきます。香もしなくなります。



秋ゆえの感傷か、身近な人を亡くしたか。貫之さんの真意も気になります。



今年も菊花・絵画展に加え、手作り作品展を開催します。去年は近くのラムーに来られた方が、お寺にきれいな花が展示してあるということで、山門をくぐって見に来てくださいました。今年は庫裏の中まで入って、画や作品を見てくださるといいなと思っています。

門信徒の中で菊の花の鉢植え・絵画・木工・陶芸・絵手紙・手作り作品等ありましたら出展下さい。又、隣近所でこれぞと思われる方が

おられましたら、声をかけてください期間は11月8日~15日までの予定です。楽しみにしています。自薦他薦を問いません。絵画だけでなく、陶芸や木彫、刺繍・絵手紙なども、歓迎です。

**出品される方は8日の午後にお寺まで持ってきてください。**

また近所で何か書いたり作ったりしておられる人がありましたらご紹介下さい。

## 伝道院特別法座 11月19日(水)午後1時~

本願寺に伝道院という研修所があります。法話の勉強をするところです。

住職として必要なことは、いろいろありますが、特にふたつ挙げれば、ひとつは葬式とか、法事とかのお勤めをすることです。いまひとつは、仏様のみ教えを伝えていくことです。伝道院では特にこのみ教えを伝える『布教』ということを中心に勉強します。



去年、次女がその伝道院で勉強させていただきました。それで特別法座を受けることになりました。二名の研修生と一人の先生が来られて、とても新鮮な法座で、若い

研修生の、これを伝えたいという必死の思いが、伝わってきて、たいへんいい法座でした。お参りになられたご門徒の皆さんも、わかりやすくよかったと好評でした。

今年も特別法座として、引き受けることにしました。

どうぞ若い布教師さんを育てるという気持ちで、誘い合わせて沢山お参り下さい。

### 青い空も月も星も花も みんな仏さまのお恵み

お医者さんの薬だけが薬だと思っていたら  
ちがった

便所へ行くのにも どこへ行くのにも  
点滴台をひきずっていく

一日中の点滴がやっと終り

後の始末をしにきてくれたかわいい看護婦さんが

「ご苦労さまでした」といつてくれた

沈んでいる心に灯がともったようにうれしかった

どんな高価な薬にも優れた

いのち全体を甦らせる薬だと思った

そう気がついてみたら

青い空も 月も、 星も、 花も、 秋風も、 しごと、

みんな みんな 人間のいのちを養う

仏さまお恵みの薬だったんだなと気がつかせてもらった



### むかし私がコーヒーが好きだった訳

今から38年前、昭和46年前後だったと思いますが、兄の親友で私の先輩が、最後のブラジル移民船【笠戸丸】でブラジルに開教に行くということがありました。



当時ブラジルには、沢山の人が移民で行っておられました。当然のこととして、浄土真宗の方も多かったので、現地に十数か所もお寺が出来ました。そこで布教をしたり、法事、葬式もするという僧侶も必要でした。ブラジルも随分奥地で大変な場所らしくて、そこに行く僧侶も無くて、なかなか決まらなかつたらしいです。それでその先輩が、親の大反対を振り切って、開教に行くという事になりました。

神戸の麻耶のメリケン埠頭から、その移民船は出港するのです。沢山の移民される人々の家族や親戚、知人が見送りに来ておられました。多くの方が、これが今生最後の別れということだったので、涙、涙の別れです。船からは無数の紙テープでながの別れを惜しんでいました。私の先輩も、ブラジルに行ったら、少なくとも10年は帰れないという事でしたから、ひょっとしたらもう二度と会えないかもしれないということで、感

傷的になり、涙を出して、別れを惜しみました。

一年後ブラジルから荷物が届きました。あけてみるとコーヒー豆のようです。麻袋いっぱい送ってくれました。それもナマの豆です。あのこげ茶色というより、薄い緑色の枝豆のような色をしていたような気がします。とにかくコーヒ豆です。

びっくりしました。兄と二人でどうして飲んでいいかわからない、《麦茶のように煮出せばいいのじゃないか》とヤカンに入れて煮出してみました。しかし生臭さくてとてもコーヒーという感じではありません。兄が《豆を煎るのじゃないか》というのでフライパンで煎ってみました。今度は色はコーヒー豆らしくなってきました。煮出してみました、やはりあまり色濃く出ません。匂いはいい香がしてきましたが・・・。



近所のコーヒー屋さんで聞くとその豆を煎るのは、専門のところがあって、そこで煎って貰うのです。そしてそれを細かく挽くのです。その豆を挽く道具が、コーヒーミルといひます。早速専門店で焙煎していただき、そのコーヒーミルを買ってきてやってみました。これはなかなか楽しい作業です。つまみによって粗引きやら、細かく挽いたりもできるのです。しかし、あんまり期待したほどおいしくありません。《なぜだろう》と又コー



ヒー屋さんにあずねると、コーヒーというものは、色んな豆を混ぜて味を出すのだそうです。豆にはそれぞれに特徴があって、取れたところで酸味のつよい豆、苦味が多い豆、甘みの強い豆という風にあじがあるのです。それをうまく混ぜ合わせて、その店だけのオリジナルなあじを出すのです。それを《ブレンドコーヒー》というのです。

だから一つだけのみめだと味に深みがありません。ストレートと言つてそれが好きという人もいますが・・・。

とにかくそれから毎日いろんな豆を買ってきて、凝りに凝ってコーヒーを飲みました。もちろんまめの種類によってあじは変わりますが、それ以外に豆の煎り方、挽き方、出し方(サイホン、ドリップ等)によつても違ひます。又水の要素も大きいような気がします。ものすごくおいしいときもあれば、苦くて飲めないというような事もありました。身体の調子によつてもおいしく感じるときと、そうでないときもあります。

色々試した結果、インスタントのコーヒーがいつでも変わらずおいしい? いやコーヒー専門店のコーヒーはとてもおいしいという結論に達しました。

またコーヒーは飲むまでの一連の作業は楽しく、香も楽しむものだと思います。

今月11月11日11時11分 立町中の棚に高級コーヒー豆専門店【コーヒーストーリー ニシナ屋】がオープンします。

長者原西の福永高さんのお店です。興味のあるひと、コーヒーのお好きな方は、是非足を運んでみてください。

